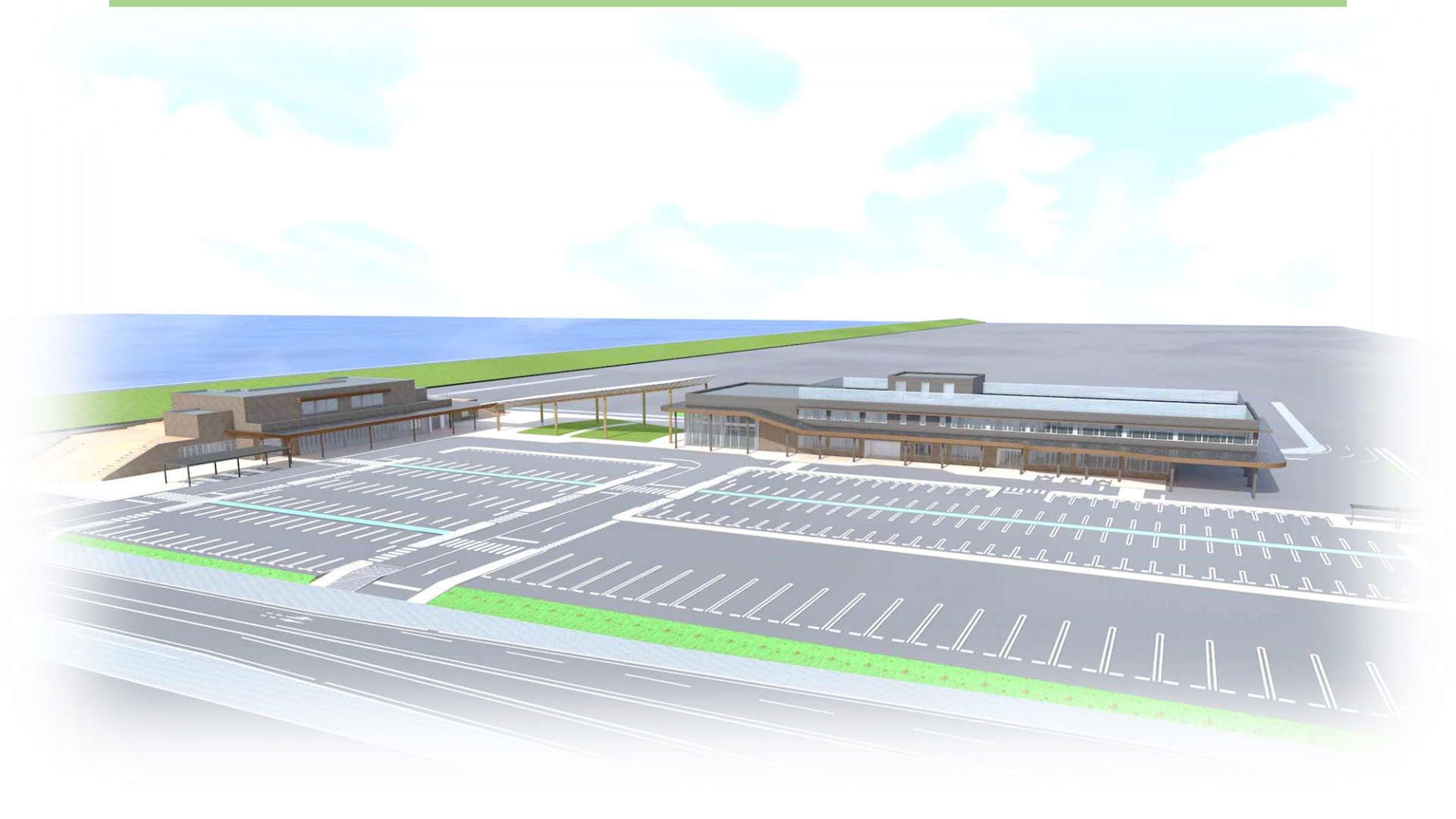


荒尾市ウェルネス拠点施設整備・運営事業設計業務
～基本設計概要説明書～



目次

1	荒尾市ウェルネス拠点施設の施設整備概要	1
2	建築概要	2
3	あらお海陽スマートタウン完成イメージパース	3
4	配置計画	4
5	道の駅（1階平面図）	5
6	道の駅（2階平面図）	6
7	保健・福祉・子育て支援施設（1階平面図）	7
8	保健・福祉・子育て支援施設（2階平面図）	8
9	大屋根広場	9
10	防災機能	10
11	概算事業費	11
12	工事期間	12

1 荒尾市ウェルネス拠点施設の施設整備概要

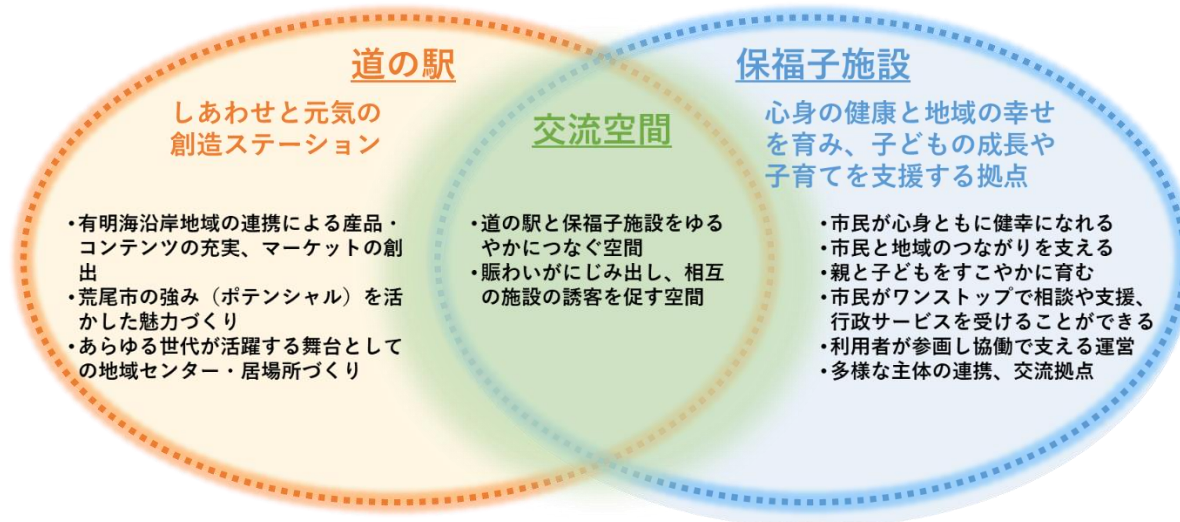
(1) 荒尾市ウェルネス拠点施設の基本方針

本施設は、道の駅及び保健・福祉・子育て支援施設（以下、「保福子施設」という。）を複合化することにより、平日の安定的な集客確保や、相互の機能連携による施設整備・運営の効率化、相互の施設の強みをいかしたプログラム提供、滞在時間の延長による消費促進など、複合化による相乗効果の発揮を目指します。

(2) 荒尾市ウェルネス拠点施設のゾーニング

施設の計画に当たっては、各施設を単に隣接させるだけではなく、各施設の特徴を踏まえた上で、相互の施設が有機的に連携しつつ、上記のような相乗効果が最大限発揮されるような、ゾーニングを目指します。

- 「しあわせと元気の創造ステーション」をコンセプトとし、産業振興や地域活性化を主眼とする道の駅と、「心身の健康と地域の幸せを育み、子どもの成長や子育てを支援する拠点」をコンセプトとし、公共性を重視する保福子施設の機能をしっかりと確保しつつ、双方の施設が交流空間を介して緩やかにつながり、施設全体として一体感のある構成。
- 双方の施設が、交流空間を介して視線でつながるとともに、交流空間に向かって賑わいがにじみ出し、交流空間を介して相互の施設の誘客が促進されるような、空間の見せ方・使い方。
- 公共空間と商業空間（道の駅の飲食施設、物産販売所等）、静的な活動と動的な活動、プライベート空間とパブリック空間など、相反する特性が混在しないよう、それぞれの機能の関係性・親和性に配慮した機能配置。又、それらをつなぐ中間領域としての交流空間のデザインに工夫をこらし、グラデーションのある空間構成。
- 保健・福祉・子育てに関する行政サービスを提供するエリアは、行政サービス提供の場としての基本機能が果たされるよう、管理区分の違いにも留意した適切なゾーニング。



2 建築概要

<敷地概要>

住所：荒尾市大島（海陽町二丁目）

面積：23,000 m²

<建物概要>

【道の駅】

構造：鉄骨造2階建て

延べ面積：2,243 m²

【保福子施設】

構造：鉄骨造2階建て

延べ面積：3,697 m²

【大屋根広場】

構造：鉄骨造

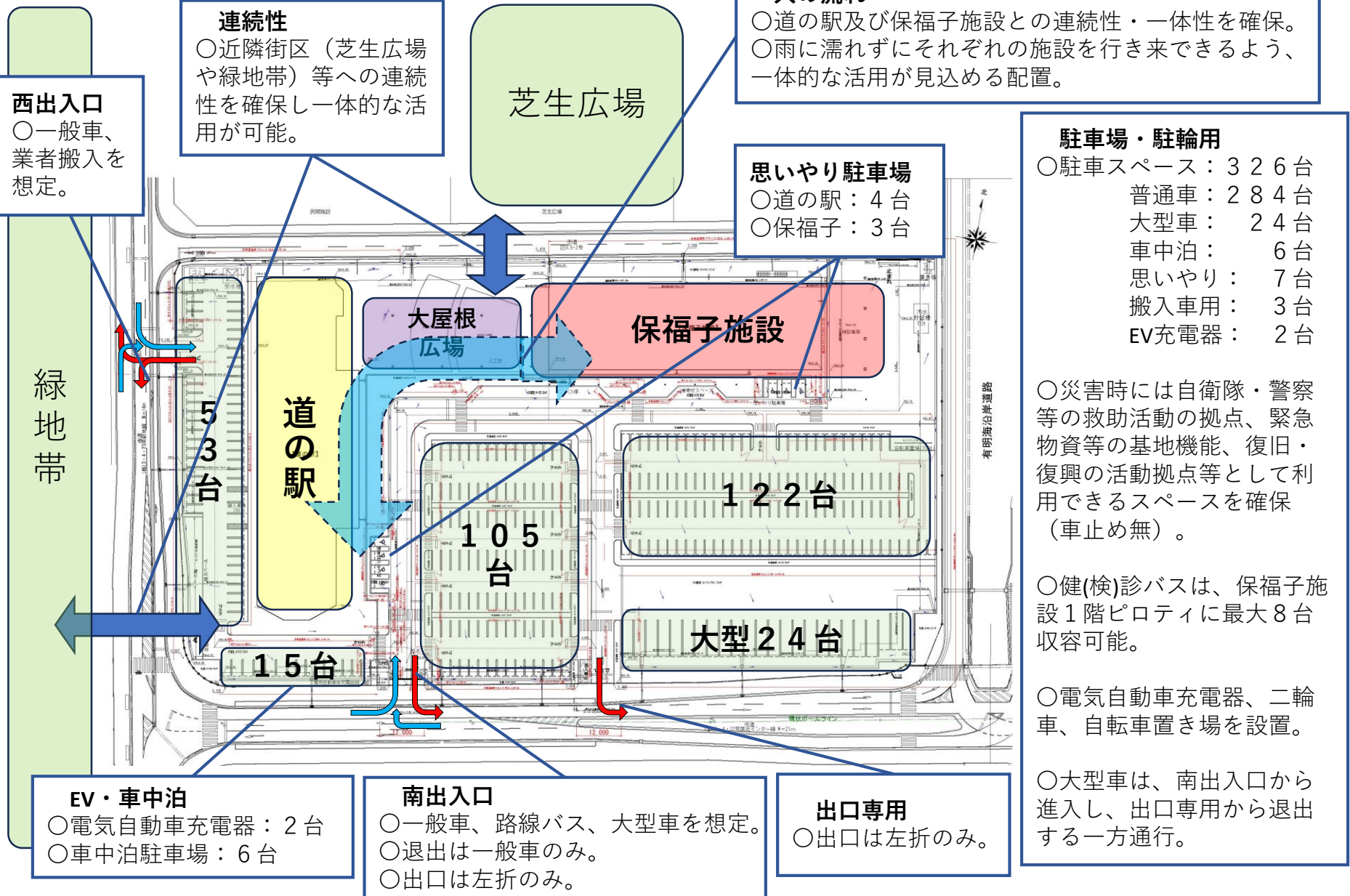
延べ面積：660 m²



3 あらお海陽スマートタウン完成イメージパース



4 配置計画



5 道の駅（1階平面図）

フードコート

- 物産直売所との回遊性を高めるため、一体感のある空間を確保。
- フードコートの近くにトイレを設置することで、24時間トイレへの長い距離移動を無くし、快適に飲食店を利用することが可能。
- 62席の客席を確保。

バックヤード

- 1次加工（洗浄、カット、加熱殺菌等）及び保管（冷凍冷蔵等）ができる設備を設置。
- 出荷者が持ち込む市内特産品等へのバーコード貼り等に対応できるスペースを確保。

24時間トイレ

- 道路休憩施設として、駐車場や大屋根広場からアクセスしやすいように配置。
- 乳幼児・こども連れ向けのオムツ交換台・こども用トイレ、高齢者や体の不自由な方をはじめ、様々な方の利用を想定した多目的トイレ、オストメイト対応トイレを完備。



1階平面図

物産直売所

- 施設を中心に配置し、カートやベビーカーを使用しても買い物が余裕をもってできるよう、630㎡の広々とした空間を確保。

地域情報発信施設

- 掲示板やモニター等で、荒尾市や周辺地域等の情報発信を行う。
- ソファや電源を配置し、施設利用者や長距離ドライバーの為の休憩場所としての役割も担う。
- それぞれの施設に、利用者が使用可能な公衆無線LANを設置。
- PC等充電用の電源を設置し、気軽に休憩できるスペースとしての機能も完備。

6 道の駅（2階平面図）

大階段

○景色を眺めたり、ベンチで休憩したり、道の駅で買った商品を食べたりできる多目的スペースとして利用可能。
○途中一段飛ばしの階段を設けることで、階段をベンチとしても利用可能。

オープンテラス

○有明海を眺望できる海沿いの立地を生かし、有明海とその向こうに望む島原半島や雲仙、多良岳を眺めながらゆっくりとした時間の中での食事や休憩ができるオープンエリア。

オープンテラス

スロープ

大階段

大階段

スロープ

○保福子施設から立ち寄りやすくするため、大階段やスロープを設置し、こども連れ、三世代等でも利用しやすい空間。

カフェレストラン

エレベーター

2階平面図

カフェレストラン

○オープンテラスからの利用者、道の駅利用者双方からの利用が期待できるため、外部入り口と内部入り口の2系統のアクセスを整備。
○36～48席の客席を確保できるスペース。

備蓄倉庫

○災害時に備え、100人程度が3日間避難できる備蓄品を収納。
○停電等でエレベーターが利用不可能な場合でも、スロープを利用して1階に備蓄品の運搬が可能。

7 保健・福祉・子育て支援施設（1階平面図）

遊び場スペース

○生後6か月から12歳までの各年代のこどもの体格や動作、活動に合った空間で安全にのびのびと遊べる遊具を設置。

健診会場・多目的スペース

○健診時は集団指導や問診、栄養相談などができるスペースとして活用。
○健診を実施しないときは多目的スペースとして、介護予防活動や、市民のサークル活動などが可能。

ピロティ

○健(検)診バスが最大8台駐車可能。
○雨天時でも濡れずに健診会場から直接出入り可能。



遊び場スペース

託児室

調理室

健診会場
多目的スペース

ピロティ

1階平面図

託児室

○来訪者が一時的にこどもを預けることができる。
○プレイマットを敷いて安全に遊ぶことができ、読書が楽しめるよう図書スペースを設置。

飲食・休憩スペース

○飲食や休憩ができ、誰でも利用可能なテーブルやイスを設置。

調理室

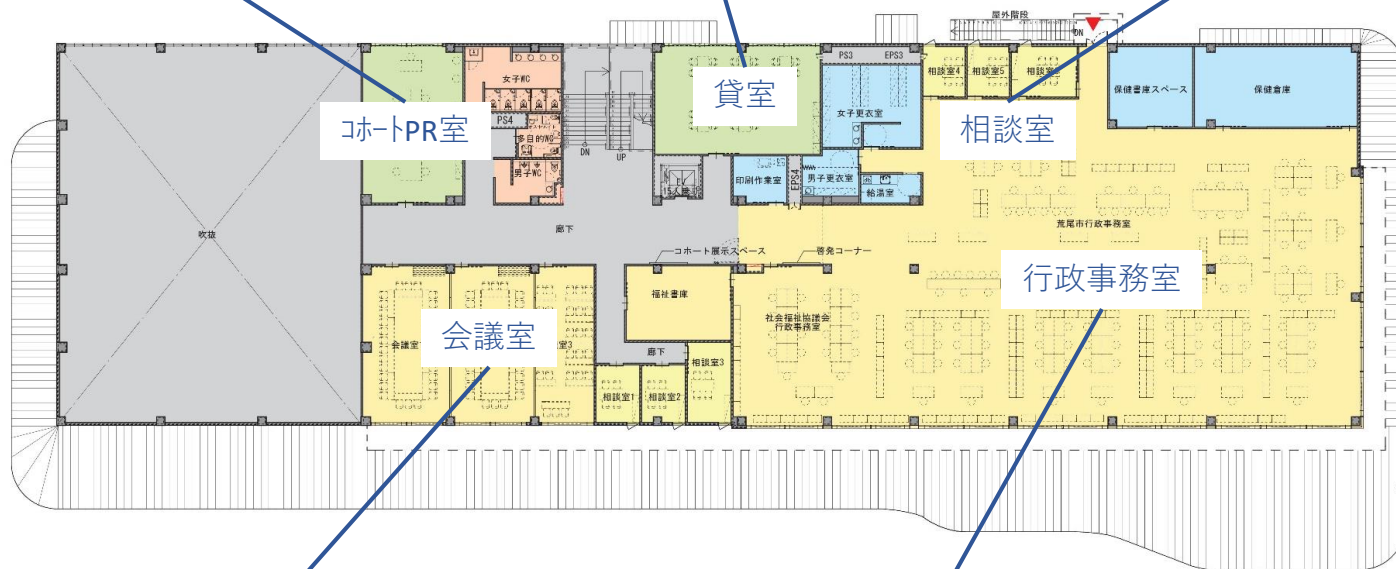
○健康関連事業や市民の食育活動の場として活用できる。
○最大40人程度が、グループに分かれて利用することができる調理台を設置。

8 保健・福祉・子育て支援施設（2階平面図）

コホートPR室
○熊本大学と協働で実施している認知症コホート研究の成果を見ることができるスペース。

貸室
○ボランティア団体等が地域福祉事業を行う場所として活用。

相談室
○プライバシーを確保した個室で相談することが可能。
(1階1室、2階6室)



2 階平面図

会議室
○大会議室として使用でき、移動間仕切りで3区画に分割して使用することも可能。

行政事務室
○市及び社会福祉協議会が、保健福祉子育てにかかわる業務を行う。
○申請や相談などワンストップで行うことが可能。

9 大屋根広場

交流空間

- 大屋根はイベント等に対応可能かつ、隣接街区の緑地への見通しができる軒高12mとし、中央部に柱がない明るく開放的な660㎡の空間を確保。
- 雨や日差しがよけられる全天候型。
- 雨の日も道の駅と保福子施設を濡れずに移動可能、各施設の連続性・一体性を確保。
- イベント開催のほか、来訪者のエントランス空間、滞留空間、休憩の場等として活用。
- 広場の床には人工芝を敷くことで、こどもたちが安心して遊ぶことが可能。

イベント等

- 販売促進に向けたマルシェ等での活用を想定し、道の駅の物産直売所と一体的に利用できる配置。
- テントでの販売や移動販売車等が利用できる電源や水栓等を確保。



10 防災機能

防災機能

- 本荒尾市ウェルネス拠点施設は、市の一次避難所及び緊急避難所として指定する予定である。
- 近隣住民が避難したり、道路利用者が一時避難することを想定。
- 毛布や簡易食糧、飲料水、非常時の通信端末等の備蓄品を管理。
- 駐車場や大屋根広場は、災害時には自衛隊・警察等の救援活動拠点、緊急物資等の基地機能、復旧・復興活動の拠点として利用できるスペースとして確保。

備蓄倉庫

- 100人程度が3日間避難できる備蓄品を収納。
- 高潮浸水ハザードマップの浸水深を考慮し、道の駅2階に設置。
- 停電等でエレベーターが利用不可能な場合でも、スロープを利用して1階に備蓄の運搬が可能。

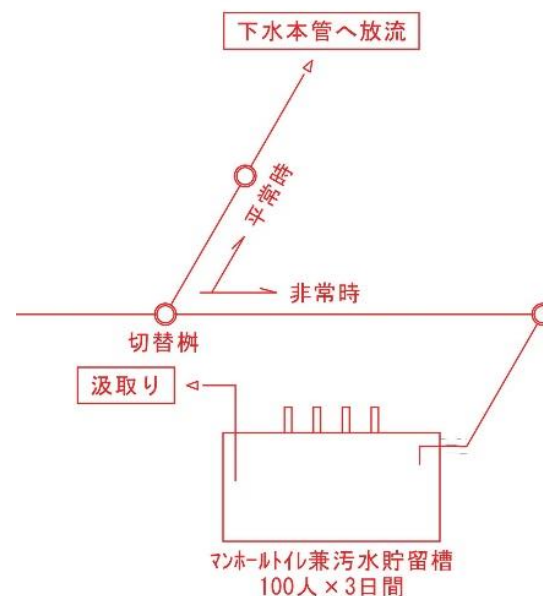
排水設備等

- 保福子施設1階ピロティの下部に汚水貯留槽を設置。災害時において、下水管への放流が不可能となった場合は、排水経路切替柵により経路を変更し汚水貯留槽（汲取り式）へ放流。
- ピロティ部には、汚水貯留槽と直接つながることができるマンホールトイレを設置できる設計とし、災害時の応急対策機能がさらに充実。

非常用電源等

- 保福子施設屋上に太陽光発電設備を設置。
- 太陽光発電・蓄電池等を活用した非常用電源を設置。
- 72時間稼働可能な、自家発電設備を設置。
- 受変電設備については、高潮浸水ハザードマップの浸水深を考慮し、屋上に設置。

排水設備系統図（一部抜粋）



※防災機能については、一部再掲あり。

1 1 概算事業費

概算事業費：約 4 7. 8 億円

うち初期投資費分：約 3 0. 1 億円
維持管理運営費 (1 5 年)：約 1 7. 7 億円

約 3 0. 1 億に対する財源内訳
国庫補助金 1 1. 3 億円
地方債 1 0. 6 億円
(うち地方交付税 3. 4 億円)
一般財源 8. 2 億円

実質負担額 1 5. 4 億円

初期投資費約 3 0. 1 億円の内訳

工事費	：	2 6 億円
設計費	：	0. 9 億円
工事監理	：	0. 4 億円
備品費	：	2 億円
その他	：	0. 8 億円

- ・ 本事業の提案上限額：約 4 8. 4 億円に対して、約 4 7. 8 億円で契約締結。
- ・ 実質負担額約 1 5. 4 億円については、維持管理運営費とあわせて 1 5 年割賦払い。
- ・ 社会情勢の変化による資材・人件費等の高騰等により工事費等が増額（物価スライド）となる可能性がある。

1 2 工事期間

道の駅あらお（仮称）開業時期：令和 8 年 6 月開業

保福子施設の行政機能については、先行して令和 8 年 4 月開業予定

- ・ 実施設計：令和 6 年 7 月まで
- ・ 建設工事：令和 6 年 8 月から令和 7 年 1 2 月まで

設計建設スケジュール

